

知的障害のある24歳の男性と 母親の在宅生活を支援する

●事例提出者

Yさん（地域生活支援センター・
ソーシャルワーカー）

Y

●クライアント

Mさん（24歳・男性）

M

◆障害・疾病状況

知的障害（療育手帳4度、H18年3月取得）。
定期通院などはなし。

◆家族構成

母（48歳）と二人暮らし。妹（21歳・療育手
帳4度）もいるが、H17年11月にグループホーム
に入居。父親はH13年、自宅で脳出血で倒れ
死亡。父母はMさん出生時より養育能力の低さを
指摘されている。

◆生活状況

持ち家（3DKのマンション）に暮らす。母のパート
収入（10万円強）と年金（遺族年金とMさん
の2級障害基礎年金・H18年5月に申請）で
の生活。しかしながら、Mさんの奨学金や学費な
どの返済に追われ、またMさんより「生活費」と
称して遊ぶお金を要求されることも多く、家計は
逼迫している（低所得2で非課税）。

Mさんは、母から食事代として¥1,000／日
と、自己口座への年金¥30,000／月で生活して
いる。

日々の生活時間は不規則で、昼夜逆転してお
り、遅くまでテレビ、ラジオを観ている。日中は
寝ているかと思えば、ふらふらと遊びに出ている
ことも多く、無断外泊もあり。時々、母に対して
（以前は妹にも）暴力が出る。

◆家族・親族との関係性

母はMさんと強い共依存関係にあり、Mさんに
強く指導できない。また、関係機関に支援を求め
るかと思えば、八つ当たりの支援を拒否すること
もある。

母方の祖父母の所在・関係は不明。父方の実家
の話はよく出てきており、叔父（父親の弟）が時
折本人を遊びに連れて行ったりしている様子。

母親は判定は受けていないが、問題処理能力・
理解力ともに低い。

◆生育歴・対人関係等

2人兄妹の長男として出生。保育園時、知的な
遅れを指摘され、児童相談所や保健師などが介入
するも、母は受け入れず、そのまま就学。小・中
と普通級に進み、私立の高校にも進学した。高校
卒業後は指圧・マッサージの専門学校に通う。

父の死後より家庭内暴力が出はじめる。気に入
らないことがあると、日常的に弱者である母、妹

に暴力をふるい、物（扉・ガラスなど）を壊す。

以降、昼夜逆転の生活が多くなり、家に引きこもっているか、中学時代の友人とコンビニ前にたむろしていたり、繁華街を徘徊している様子。

本人は収入がまったくないので、生活費は母に無心（¥1,000／日）しているが、タバコ代などにすぐに消える。

社会性が低く、宗教やマルチ商法といったトラブルに巻き込まれることも頻回にある。

就労については、本人の希望（学んだことを生かしてマッサージ店で働きたい）はあるが、これまでのアルバイトは長続きしていない。

対人関係は良好だが、思い通りにならないと目つきが変わることが多い。

◆相談内容・主訴

そもそもの世帯への介入のきっかけは、妹への支援であった。妹は中学時代に療育手帳を取得（4度）、高校卒業後半年ほどして仕事に行けなくなり、引きこもりの生活になったことから行政に相談が入った。ケースワーカーがかかわり、就労を継続することが困難な家庭状況、また妹本人から家を出たいという希望があり、H17年冬にグループホームへ入居。現在は就労もしており、単身生活に向けて準備を進めている

母の主訴は、本人（Mさん）が昼夜逆転の生活をしており、仕事もせず家にいてお金をもっていくことが困るという内容。妹のグループホーム入

居をきっかけに2人での生活になったことも、ストレスを感じる大きな要因となっている模様。

◆これまでのかかわり・経緯

介入後は定期的に訪問し、Mさんとの関係構築を始める。本人の興味・やりたいことが「運動したい」であったので、まずはそれを足がかりにキャッチボールなどを通じて関係性構築を進める。

あわせて療育手帳の取得を支援し、現在は日中に常にいる状態からの脱却を目指し、本人の興味のある活動への参加を手始めに、余暇中心にはなるが、まずは自発的に日中外に出るような活動につなげようと試みている。

母からの相談事項でもあり、本人も「就労先を探している」とのことだったが、本人のニーズを探っていくと、本人は現状の生活に満足しており、就労意向についても「母親がうるさいから」といった様子が感じられる。

◆問題点・課題

- 母と本人の共依存が強く、本人は現状の生活に何一つ困っていない。本人のニーズはないが、家族のニーズはある状況で、どのような支援が可能なのか。
- 障害受容が不十分なため、さまざまなトラブルに巻き込まれる恐れが高い。
- 母親は本人の生活態度や経済面での不安等をかかえており、母の精神的安定に向けての支援も必要と思われる。

ケース検討会

ケースの全体像をつかむ（見立て編）

野中 ありがとうございます。母親との二人暮らしの24歳の男性、軽度の知的障害があり、昼夜逆転の生活をしていて、お母さんも精神的に不安

定になっているという事例です。はじめは客観的な情報をそろえて、それから具体的な支援の手立てを考えていきたいと思います。まずは、今プレゼンテーションしていただいたほかに、どんな情報があるといいでしょう。

かかわりのきっかけ

発言 Yさんはいつ、どのようなきっかけでこのケースにかかわりはじめたのですか？

Yさん 先に妹さんのほうに行政のケースワーカーがかかわっていたのですが、妹さんがグループホームに入ったのをきっかけに、お兄さんにもかかわっていかうということになり、妹さんにかかわっていたワーカーが女性だったのと、兄妹仲があまりよくなかったので、私が所属する地域生活支援センターに18年1月に「新たな支援者として入ってほしい」という依頼がありました。

発言 妹さんが20歳でグループホームに入るといのは、年齢的に少し早いと思うのですが、どんな経緯だったのでしょうか。

Yさん 妹さんが一緒に住んでいたときは、世帯のなかでキーパーソンになりうる知的能力、生活能力をもっていたのは妹さんだったのです。お母さんは必要な物の買い出しなどを妹さんに任せきりにして、妹さんに負担がかかっている状況でした。そのうえ、Mさんの家庭内暴力の矛先が妹さんに向かうこともあり、そんなときお母さんは妹さんをかばうどころか、自分だけ逃げ出してしまっていたようで、妹さんとしては「こんなところにはいたくない」ということで、グループホームに入ることになりました。

発言 ご本人の手帳取得が平成18年3月と最近のことなのですが、どのような経緯で手帳取得に至ったのですか？

Yさん 妹さんに関係者がかかわっている時点で、「お兄ちゃんも手帳が必要なレベルだね」という話は出ていたようです。それで、妹さんがグループホームに入り、私たちがかかわりはじめたときに手帳取得の支援を開始しました。

発言 話はスムーズに進んだのですか？

Yさん 本人が普通校の小・中・高校へ行き、専門学校へも進みしましたので、お母さんはずっと手帳の取得には拒否的だったようですが、本人が働

けていない状況が続いており、お母さんとしてもなんとか現状を変えたいと思っていたところだったので、福祉の支援が受けられるというところで納得されました。

発言 ご本人はどうでしたか？

Yさん 私はご本人が抵抗するかと思っていたのですが、意外とすんなり申請に応じられました。

本人の能力について

発言 小・中・高では、いじめなどはなかったのでしょうか？

Yさん いじめがあったかどうかは把握していませんが、学校には比較的行けていたようで、特に引きこもりや登校拒否などはなかったようです。今も仲良くしているのは中学校時代の友達です。今も仲間はずれにされていたということはないと思います。

野中 どのくらいの偏差値の学校ですか？

Yさん 正直、かなり低いです。希望すれば誰でも入れるような学校です。

野中 本人のIQは？

Yさん 53です。精神年齢レベルが9歳4カ月。相手の言っている意味を理解するのが得意ではないので、会話には自信がありません。性格は真面目なのですが、感情のコントロールが未熟で、その場の感情に左右されやすい傾向があります。

発言 お母さんに対する暴力というのは、具体的にはどのようなことですか？

Yさん 直接暴力をふるうわけではないのですが、物を投げつけたり、壁に穴を空けてみたりといったかたちで噴出しています。それでお母さんが怯えてしまって、家から逃げ出してしまうということがよくあります。

野中 本人の身長・体重はどれくらいですか？

Yさん 160cm、50kgといったところです。どちらかというと小柄で華奢な体格です。

野中 じゃあ、それほど迫力はないですね。

Yさん はい。迫力はありません。

野中 暴力のレベルは、物に当たってお母さんを脅すという程度ですね。

Yさん はい。

野中 包丁を持ったりということは？

Yさん 今のところはありません。

発言 どんなことをきっかけにして暴力が起こるのですか？

Yさん 思い通りにいかないときですね。

野中 何について思い通りいかないときですか？

Yさん 私が知っている範囲では、お金がらみのことがほとんどです。

野中 暴力や困りごとが生じたとき、お母さんは誰に相談するのですか？

Yさん 以前妹さんにかかわっていたケースワーカーか、私と同じ事業所の女性スタッフです。

野中 お母さんは男のところへは相談に行かないのですか？

Yさん そういえばそうですね。

発言 ご本人は家庭の外で暴力を振るったりすることはないのですか。

Yさん 正直、日中は何をしているのか、まだ詳細までは把握できていません。ただ、外で暴力を振るったり、犯罪的なことに手を染めたりということはないと思います。むしろ、理解力の低さから被害者になることのほうが多く、キャッチセールスに200万円の英会話セットを買わされそうになったりしたこともあります。

野中 それはどういう話ですか？

Yさん 私がかかわる前の話ですが、繁華街を歩いていて声をかけられてついて行ったようです。

野中 結果はどうなったのですか？

Yさん 自宅に請求書が来て、びっくりしたお母さんがケースワーカーのところに駆け込んで、クーリングオフの手続きを取ったそうです。

野中 本人は問題解決に向けて何かしましたか？本人の問題解決能力を知りたいのですが。

Yさん いえ、お母さんに投げっぱなしでした。

本人の生活状況・就労意向について

発言 本人は昼夜逆転しているとのことですが、外泊したり遠出をすることもあるのですか？

Yさん 無断外泊は頻回にあります。ただ、出かけている範囲はそう遠くはなく、聞くと「コンビニにいた」とか、せいぜい電車で20分程度の繁華街くらいようです。

発言 本人はアルバイト経験があるようですが、どんな内容のアルバイトをどういう経緯で見つけたのか教えてください。

Yさん 専門学校を卒業してからパチンコ屋でアルバイトをしていました。経験としてはそこだけです。きっかけは、自分で情報誌を見て連絡したようです。

野中 どれくらい続いたのですか？

Yさん 約半年です。

野中 それはすごいですね。辞めるときは、どうやって辞めたのですか？

Yさん おそらく、自然に行かなくなって辞めたのだと思います。

野中 障害者の就労を支援する場合は、辞め方がとても大事なんです。相手方と摩擦を起こして辞めてしまうと、向こうは「もう障害者を雇うのはイヤだな」という感情を抱いてしまいます。そこを、「病気が少し悪くなったので辞めさせていただきます」といねいに言って辞めれば、次も雇ってくれます。支援者はこういうノウハウももっておくといいですよ。

Yさん はい、わかりました。

発言 本人はこれから進みたい分野などはあるのですか？

Yさん 指圧・マッサージの専門学校に行っていたので、「マッサージ系の仕事に就きたい」と言っています。

発言 何か資格はもっているのですか？

Yさん いいえ。学校は卒業はしたのですが、国家資格などはとれていません。

発言 はり師・きゅう師の資格は難しいと思いますが、あん摩マッサージ指圧師ならまだとりやすいのではないのでしょうか。

Yさん たしかにそうですね。

野中 資格があるのとないのとでは、就労のしやすさが各段に違ってきますからね。資格取得の条件を調べることも支援項目になりますね。

Yさん はい。

本人の興味・嗜好について

野中 本人はどんな風貌をしているのですか？

Yさん 髪はロン毛に近いくらい伸び、ヒゲはうっすらと無精ヒゲが生えています。着るものは相当に汚く、臭いを発しています。夏でもジャンパーをはおって、下はサイズが合っていないようなだぶだぶのズボンをはいています。

野中 靴は？

Yさん いつも同じ靴で、古いバスケットシューズを履いています。中学校時代にバスケットをしていたそうです。

野中 洗濯はしないのですか？

Yさん していないと思います。

野中 やろうと思えばできますか？

Yさん 本人が必要性を感じ、誰かが教えればできると思います。

野中 女の子に興味は？

Yさん 年頃なので私もその点は気になって、「今まで彼女はいたの？」と話を振ることがありますが、いつもはぐらかされてしまいます。

野中 もっと直球で、エロ雑誌を持ってきて「どの本がいい？」「何回マスターベーションやってるの？」と聞いてみたらどうですか？

Yさん 自宅でそういう本をみつけて指摘したことがあります、ニヤニヤしていましたので、興味があることはあるのだと思います。

野中 当然ですよ。マスターベーションのしかたは知っているのかな？

Yさん それは大丈夫だと思います。

発言 ご本人の楽しみは何でしょう。

Yさん 野球が好きですね。

野中 どのファン？

Yさん 広島です。

野中 なぜ？

Yさん 足を使った野球がいいそうです（笑）。

野中 コツコツ努力するのがいいのかな？

Yさん ホームランバッターばかりを並べる巨人の野球は嫌いだそうです（笑）。

発言 Yさんと一緒にバスケットをしたりすることもあるのですか？

Yさん 本人は誰かと話がしたい、一緒に何かをやりたいという気持ちをもっています。「何がしたい？」と聞くと「野球がしたい」と言うのですが、人数的な問題もあるので、今はキャッチボールを一緒にやっています。

野中 普通免許はとっていないのですか？

Yさん はい。

野中 興味は？

Yさん 車には興味がありますので、とりたいて思っていると思います。

野中 どういう車種が好きなの？

Yさん 好きな車種までは具体的に聞いたことはありません。

野中 このあいだ、知的障害者のケースについて事例検討をしたときに、フェアレディZの試乗をして関係がよくなったという事例がありましたよ（本誌2007年5月号参照）。だから、本人が興味をもっていることには、悪ノリするくらいに付き合ってみるのも一つの方法だと思いますよ。

Yさん はいわかりました。参考にさせていただきます。

母親について

発言 お母さんの仕事は？

Yさん オフィスビルの清掃の仕事です。

発言 親子と一緒に過ごす時間はあるのですか？

Yさん 本人は昼夜逆転しているので、お母さんが疲れて帰ってきてご飯を食べて休もうかというときに本格的に活動を開始します。朝はお母さんが家を出るときに本人がようやく眠りにつく。そんな状態なので、きちんとした会話はほとんどないと思われます。特に夜などは、お母さんとしては休みたいのにうるさいので、時にいがみあう状況もみられるようです。

野中 お母さんは何時に帰宅して、本人は何時に起床しているのですか？

Yさん お母さんは朝8時半に家を出て、帰宅は夕方5時くらいです。週に5日働いています。本人の起床時間は日によってバラバラです。たいていは午後2時か3時まで寝ているのですが、朝8時に起きて外出することもあります。

野中 食事はどうしているのですか？

Yさん お母さんは朝と夕方は自宅で食べています。本人は昼夜ともに適当に外で買い食いをしていきます。本人はあまりおなかが減らないということで、1日1食の日も多いようです。お金を使いたくないという理由もあるとは思いますが。

発言 家族と一緒に食事をするということはないのですか？

Yさん ほほないと思います。

発言 お母さんは自分で料理をするのですか？

Yさん お母さんは「料理している」と言うのですが、自宅の状況を見ると、レンジでチンするグラタンが残っていたり、菓子パンの空き袋が散乱していたりするので、いわゆる手料理はほとんどしていないのではないかと思います。

発言 ご家族は地域との交流はあるのですか？

Yさん 近隣に精神障害者の作業所があるのですが、お母さんはそちらの方と相談をしたりすることもあるようですので、まったく交流がないわけではないかもしれません。

発言 お母さんはご本人にどうなってほしいと思っているのですか？

Yさん お母さんはご本人のことについて、「なぜふつうに働けないのか」「お金を稼いで家に入れ、自活してほしい」「ゆくゆくは私の面倒を見てほしい」とおっしゃっています。

発言 自活というと、本人のひとり暮らしを望んでいるのですか？

Yさん いいえ、たぶん家は出て行ってほしくないと思っています。妹さんが出て行ってからというもの、寂しくて妹さんを家に戻したくてしかたないんです。

野中 お母さんは知的障害だと一見してわかりますか？

Yさん 専門職の人間ならすぐにわかります。一般の方から見ても、格好がとてもインパクトが強いので、違和感をもたれると思います。

野中 どんな格好なのですか？

Yさん 色白で、丸眼鏡をかけていて、髪の毛が長く、常に目線が泳いでいる感じで、着ている服がとても強烈です。

野中 どんなふうに？

Yさん 季節感がないというか、常に父兄参観日のような格好なんだけど、どこかずれているような——。ラメが入っていて、いわゆる関西のオパチャン系のゴージャスな格好です（笑）。

発言 お母さんは健康面は大丈夫なのですか？食生活の状況などをうかがうと心配なのですが。

Yさん 実は糖尿病の内服をしているのですが、「お金がなくて病院に行けないので困っている」とおっしゃることがあります。

野中 お母さんを主に支援する専門家はいるのですか？

Yさん 困ったときには以前妹さんにかかわったケースワーカーなどに相談がありますが、日常的には、私がMさんをメインにしながら、お母さんのお話もうかがっている状況です。

野中 そのあたりも今後の検討課題ですね。

Yさん はい。

発言 年金管理はお母さんがしているのですか？

Yさん そうです。

野中 本人管理にしない理由は？

Yさん 計画的な使い方ができないことが最大の理由です。お母さんとしては、年金のなかからMさんの奨学金の返済に充てたいと思っているのですが、全額を本人管理にすると、まったくなくなってしまうので、お母さんが管理をしています。

野中 本人にはいくら渡しているのですか？

Yさん 年金6万5000円のうち、3万円を本人の口座に入れています。

親族の状況

発言 お父さんが亡くなる前は、どんなご家族だったのでしょうか。

Yさん お母さんにそのあたりをうかがうと、「自分はこれだけ苦労してね」という話にすり替わってしまうので、ハッキリとは見えてきません。

野中 家族の生活史を聞くには、アルバムを見せてもらって具体的なエピソードと一緒に関係性なども聞き出せると思いますよ。

Yさん なるほど。まだアルバムを見せてもらったことはないのですが、これから試してみたいと思います。

発言 事例のなかに父方の実家のおじさんの話が出てきますが、どこにお住まいのですか？ また、このご家族と実際的なかわりはあるのでしょうか？

Yさん おじさんは隣県にお住まいです。お父さんの命日には、ご本人やお母さんをお墓参りなどを一緒にされているようですが、こちらに来たり、金銭的な支援などはしていません。

発言 お母さんのほうの親戚と付き合いはあるのですか？

Yさん やはり隣県にお母さんの妹さんがいらっしゃいます。関係は良好なようで、時々姉妹そろって外出したりしているようです。

具体的な対応策を考える（手立て編）

野中 ここまでのやりとりで、24歳の青年とお母さんの置かれている状況が徐々に見えてきました。次にプランニングに移りましょう。これから、どんな手立てが考えられると思いますか？

発言 私は整容面がとても気になりました。YさんとMさんは男性同士ですから、たとえば一緒に銭湯に行くといったことはどうでしょう。

野中 Mさんは基本的な日常生活能力を習得できていないようですからね。お風呂の入り方やATMの使い方など、いろいろなことを一緒にやりながらチェックするというのはいい方法ですね。全部をチェックすると、意外なことができたり、できなかったりします。そこから支援を組み立てていくことができるでしょう。

Yさん 参考にさせていただきます。

発言 金銭管理は今のままでよいでしょうか？

野中 そうですね。ゆくゆくは本人の自己管理、そして自立生活にもっていききたいところですね。今のお金の使い道を洗うところから始めて、半年後、1年後というスパンで目標を定めて、お母さんにも納得をしてもらうことが大切でしょう。

発言 過去の生活歴や家族の関係性など、まだ見えていない部分も少なくないので、父方のおじさんやお母さんの妹さんなどにお話をうかがってはいかがでしょうか。

野中 拡大親族に当たれば結構あっさりとわかることもたくさんあるでしょうからね。

Yさん たしかに——。今後、連絡をとってみたいと思います。

発言 お母さんの健康状態をチェックする必要があるかなと思いました。

野中 重要ですね。あわせて、お母さんの支援者を立てることも必要でしょう。今のような、Yさんがどちらも支援しているかたちをとっていると、今後Mさんとお母さんが対決しなければいけないような場面が来たときに、どっちつかずにな

ってしまいます。「僕は君の味方だよ」とスタンスを明確に見せたほうがいいでしょうね。

Yさん なるほど。そのご指摘は胸に落ちるものがあります。

野中 お母さんは男には相談しにくいようですから、女性のサポーターがいいでしょうね。

Yさん わかりました。

野中 今日の内容をまとめると、表のようになるでしょうか。Yさん、いかがですか？

Yさん このケースは、本人のニーズがなかなかつかめず、関係性がつくれないままモヤモヤしていたのですが、今日はたくさんの新しい視点をいただくことができました。ふだん職場で事例検討をしていますが、ここまで深い情報を整理したり、これだけのアイデアが出ることはないので、大変助かりました。明日から一つずつ取り組んでいこうと思います。ありがとうございました。

